

令和2年度岡山市市民協働推進モデル事業 最終評価表

実施団体	NPO 法人岡山市子どもセンター	協働部署	地域子育て支援課	記入日	令和3年4月19日
------	------------------	------	----------	-----	-----------

1. 事業の目標と達成状況

目標	目標に対する現在の状況と今後の対応	ESD・市民協働推進センターから
居場所の周知	<p>【周知方法と利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなん和やかサロンだよりを毎月発行…近隣の町内回覧、近隣の公民館等に配布 ・SNSによる情報発信…団体のFacebook ページや Instagram で定期的に様子を発信 →町内回覧や SNS の情報、口コミにより新規利用に至る人も多い。 ・登録世帯数 132 世帯、のべ利用者数 2201 人(平均 9.1 世帯、20.2 人) [109 日開所] →施設規模的にはこれ以上のゆとりがないほどの利用者が訪れている。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き定期的な情報発信を行うが、下記の観点から大規模な広報は実施しない。 ・限られた空間の中で利用者の3密を回避することも念頭に、引き続き外遊びを推奨、屋内スペースもベターライフ御南を利用する地域の方々と調整の上、できる限り広い空間の確保に努める。 	<p>【相互理解の原則】</p> <p>令和2年度は協働部署で異動による担当者の交代もあり、モデル事業実施に至るまでの長期的な経緯などを確認することから始まったが、改めて本事業実施の意義を認識する機会となった。実施団体と協働部署がそれぞれの立場を理解し、互いに役割を果たした。</p> <p>【目的共有の原則】</p> <p>ニーズ調査結果に基づく年間目標の作成を協働で行った。これにより、本事業で実施する親子の居場所の方向性を共通認識することができた。</p> <p>また、本事業終了後の岡山市における事業成果の活用について、定期的の方針を確認した。</p>
ニーズ調査を踏まえた居場所運営で、子育て不安や孤立感の解消、子どもの育ちの促進に対する働きかけを行う	<p>【居場所の運営と調査類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査結果を基に年間目標を作成し、それに沿った詳細目標を設定した。 ・スタッフが積極的に声を掛け、親同士の会話の促し、子育て講座や相談対応などにより親の子育て不安や孤立感の解消に努めた。また、自由で創造的な子どもの遊びを促す環境を設定し、子どもの育ちを促進する働きかけを行った。 ・子育て不安や孤立感等の変化を測るアンケート調査を2回(プレ・ポスト)実施した。 ・スタッフを対象としたフォーカスグループインタビューと事業評価により、令和2年度の取組を適切に振り返り、成果と課題を確認した。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査類から、利用者親子への対応は満足度も高く年間目標の到達度も高いことが明らかになった。一方で、緊急時の体制や相談体制の充実、地域との関わりに課題が残った。 	<p>【対等の原則】</p> <p>実施団体、協働部署双方の意思や意見が尊重された。事業の性質上、実施団体が担う役割は非常に多かった。一方で協働部署は、本事業の直接的な役割は少ないものの、事業成果を活用するための調整に継続的に取り組んでおり、中長期的に必要な役割を担っている。</p>

	<p>令和3年度は引き続きニーズに沿った利用者親子への対応を行うと共に、居場所運営において重要な緊急時の体制確立、相談体制の充実、地域との関係構築に注力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに出張による居場所を月1回開設し、ノウハウを探ると共に効果検証を行う。 ・年間目標の詳細51項目をより多くの人把握しやすい内容に見直し、日誌の様式変更等により、さらにスタッフ間での情報共有や、事務局・行政等の関係者間の連携・協働の効率化を図る。 	<p>【自主性及び自立性尊重の原則】</p> <p>意思決定や情報共有に関して、不当な干渉や過剰な圧のないよう、互いに心がける姿勢を持っていた。早計な判断ではなく、状況を理解したうえで意思決定をすることに努めた。</p>
<p>スタッフの資質向上</p>	<p>【施設見学、勉強会、研修等】</p> <p>見学：南方岡山中央地域子育て支援センター(岡山市) 見学：NPO法人子どもたちの環境を考えるひこうせん主催「わくわくる一む」(備前市) 勉強会：武田信子2009『育つ・つながる子育て支援』をアドバイザーと共に読む 勉強会：気になる親子や個別相談の共有、対応方法を協議 研修：気になる子どもの保護者への相談支援(中国短期大学保育学科 平尾太亮准教授) 研修：岡山県による研修会は、新型コロナの影響により開催時期が延期された。協働部署による情報提供はあったが、日程の関係から今年度は参加に至っていない。</p> <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記で課題となった相談対応体制の確立や、利用者親子へのより充実した対応のために子どもの発達段階に応じた遊びの提供等に関する研修参加や勉強会の実施を予定。 	<p>【公開の原則】</p> <p>週3日間の居場所運営であり、膨大な情報量となるため、すべての事柄を逐一把握できているわけではないが、毎月の定例会議で1ヶ月の間の居場所の様子について共有され、概要を把握できている。また、みんな和やかサロンだよりなどの広報物、各種調査結果等についても共有された。</p>
<p>モデル事業終了後の方針</p>	<p>【令和3年度の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市の親子の居場所の質向上を念頭に、ニーズに基づく居場所運営を引き続き行い、取組事例などから、子育て不安や孤立感の解消、子どもの育ちを促進する「望ましい親子の居場所のあり方」をまとめた報告書を作成する。 <p>【協働推進事業終了後の展開について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業を通じて明らかになる「望ましい親子の居場所のあり方」について、内容をまとめた報告書に基づき、岡山市の既存の子育て支援施策(子育て広場、地域子育て支援拠点、児童館・児童センター)等へ研修を行うことで居場所運営の向上を図る。 ・今後、子育て支援に関する事業の要綱や仕様書等に、本事業により得られた知見を踏まえた具体的な内容を盛り込むことで、居場所運営の向上を図る。 	